# SHINCLUB 983

株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「昇ビル」 撮影: Vincent Hecht

# 空に昇る

合気道という武道をみなさんご存知かと思います。植芝盛平翁氏 (1883~1969) が日本伝統武術の奥義を究め、さらに厳しい精神的修行を経て創始した現代武道です。相手といたずらに強弱を競わず、入身と転換の体捌きと呼吸力から生まれる技をかけあいます。お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の錬成を図ることを目的としており、他人と優劣を競うことをしないため、試合や競技を行いません。開祖・植芝氏ご逝去後、故植芝吉祥丸氏 (1921~1999) が道主を継承し一般にも門戸を開放し世界に広げ、現在、植芝守央氏が道主を継承しています。(公益財団法人合気会ホームページより) その道場が東京都新宿区にあり、今回のクライアントははるばるルーマニアからそちらの道場に通っていたことから今回の計画が始まりました。

学生時代から合気道に興味を持ち日本に訪れるようになったクライアントは、今では世界でもトップクラスの師範として活躍されています。以前は来日した際に、道場の近くにあったちゃんこ料理店に通っていたそうです。東新宿駅から東に走る、抜弁天通りの一番高台にある厳嶋神社の隣にある今回の計画地は、かつてのちゃんご料理屋があった正にその土地でした。

日本の文化や建築にも深く興味をもったクライアントは、縁あってそこでルーマニア料理のレストランと母国から道場に訪れる仲間たちが宿泊できるような建物を作りたいと知り合いに相談したところ、古くからの友人のフロリアン ブッシュ アーキテクツの

フロリアン・ブッシュ氏を紹介されました。

計画地は新宿区余丁町にあります。町名の由来は、江戸時代当初には横町が四本あったことから「大久保四丁町」と呼ばれていましたが、後に縁起の悪い「四」を「余」に改めて「大久保余丁町」としたことに由来します。1996年に道路の拡幅工事で前面が国道に面するようになり、より見通しが良く三方に視界が開けるようになったこの敷地ですが、当初は既存の3階建ての建物に2層足してリノベーションが出来ないかと検討していました。ところが構造上の問題もあり、リノベーションでは不可能であると判断したフロリアン氏は建替え工事を勧め、クライアントも快く承諾しました。

しかし更に困難な道は続きました。敷地はわずか 48 ㎡あまりの 広さですので、いかに有効に利用できるかを検討し、さまざまな 模型を作成しスタディを重ねました。小さな敷地を最大限に活かして使うには上に伸ばした形にするほかありません。まるでその ことを見越したように、クライアントの社名は「昇 (nobori)」といいます。そして、まるで社名を体現したかのような建物は「昇ビル」と命名されました。

それではどのようなプロセスを経て、クライアントの希望を叶える建物となっていったのでしょうか。続きをご覧ください。

# 昇ビル



厳島神社越しの夕景

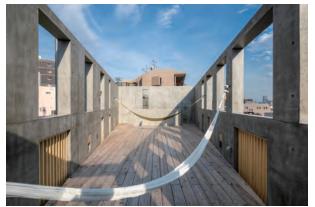
## 限られた敷地のなかで

クライアントからの依頼を受け、敷地や隣接する厳嶋神社の歴史について調べ 解析した。1086 年、関東平野を横切って陸奥の国を目指す源義家の一陣が宿 営としたのが、まさにこの峠だったといわれており、この辺りで最も高い地点で、 迫り来る危険をいち早く察知するため見晴らしの良いこの場所を選んだそうだ。

48 ㎡という限られた敷地の可能性を検討するにあたり、エレベーター, 避難階段を配置すると残りはバスルーム位の広さになってしまう。あたかも入 り組んだ路地のような、尚且つ狭い部分からきれいに景色が見えるようにとこ のようなプランになった。昔は富士山が望めたそうだが、眺めを解析し将来を 想定し道路に囲まれているためどんなに高層ビルが建ったとしても三方の眺め は残るだろうと意識して設計した。その結果、半屋外の階段で 2 階に上がった 西側はまさに源義家がここに立っているような場所になった。

6 階以上になるとエレベーターを設置しなければいけなくなることから、エレ ベーターなしの 5 階建ての建物で何が出来るか検討を進めた。階高をなるべく 高くしいろんな階段の配置を検証し、最終的には廻り階段である今の形が一番 効率がよく魅力的であると分かった。クライアントは日本の歴史的な建築物や 茶室などに理解があり、外周に続く階段で切り取られたあいまいな空間(例え ば2階のカウンター部分や3階のロフト等)を、快く受け入れてくれた。廻り 階段は内外を行き来しており、建物の中だけれど路地の延長のような、外の車 の音や匂いや光を感じながら自分の部屋まで帰る、半屋外のアプローチとして いる。

(フロリアン ブッシュ氏 談)



屋上には空を感じるハンモック



スイスから輸入したフランケの便器



外の光や音を感じながらのぼる



街の行灯のような安心感と賑わいを生む開口部



海外のお客様に日本を感じて頂く掘りごたつの間



レストラン入口

:新宿区 所在地 : RC造 構造 : 地上5階 規模

用途 : 飲食店舗付共同住宅

: フロリアンブッシュ建築設計事務所 設計

構造 : 川田知典構造設計 施工担当: 富樫(鯨津チーム) : 2023年5月 竣工 : Vincent Hecht

# Florian Busch

今月は、「昇ビル」の設計者、フロリアン・ブッシュ氏にお話を伺いました。

ー海外のクライアントが多く、事務所スタッフの方は多国籍でい らっしゃいますね。

ブッシュ:現在 11 人いるスタッフのうち外国人は約半分です。 クライアントも海外の方もいますが、日本人も多いですね。

-現在進行中のプロジェクトについて教えてください。

ブッシュ:伊豆と富良野と東京、4 つの個人邸の設計段階です。 それから 11月 26日まで現在ヴェネツィアビエンナーレで大きな プロジェクトが展示されています。ここでは、「東京都を解析しこ れからの都市が抱える問題をどう解決するのか」、というテーマを 投げ掛けています。これまで異常と認識されてきた災害が温暖化 の影響により今後普通になっていくでしょう。昨今の調査による データを見ると、例えば 20~30年後には都内の広域で毎年浸水 すると予想されています。そうなった場合には、東京に散在する 一軒家に住んでいる 400~ 500 万人が毎年被害に遭うことにな り、今までの暮らし方が難しくなる地域が出てきます。災害問題 の解決策としてありがちの超高層ビル、所謂タワーマンションが 挙げられているが、それはもっと根本的な問題を引き起こしてい ます: 周りの街とは関わりがない閉鎖的な要塞を作ってしまいま す。東京だけではなく世界中にある現象ですが、この様な都市計 画によって、街の活気や豊かな多様性を作り出す道路や路地が徐々 になくなっていく傾向にあります。これからの街を考えると違う 発想もあるのではないか、と問いかけ、今ヴェネツィアのビエン ナーレで「Vertical Landscapes (垂直ランドスケープ)」という 提案を展示しています。

東京は川だった場所が多く、解析すると起伏が激しい地形が多いです。そこに、高層ビルの様に単に「層」を重ねるのではなく、東京の様々な地形の勾配をシームレスに続くように境界を設けずに誰でも入れる街空間を創り出す。活気ある街の公共スペースを3次元で広げる概念です。



スタディ模型とブッシュ氏(右) 「昇ビル」担当者 山下ジロ氏(左)

「森の中の家」(2020年)

2016年「K8」 DETAIL 2016 PRIZE 2017年「K HOUSE IN NISEKO」

BEST ARCHITECTURE DRAWINGS OF THE YEAR

2017年 「カウナス・サイエンス・センター案」

**BUILD 2017 AWARDS** 

2018年「THE FLOATING STADIUM」

BUILD 2018 AWARDS

2020年 「森の中の家」

BEST ARCHITECTURE DRAWINGS OF THE YEAR



周りの環境と一体になって、人間のコミュニケーションでコミュニティを造っていく社会にすることを提案しています。それは東京だからこそ可能なのではないかと思います。今回の昇ビルをもっと極端にした考えで、街を歩きながら帰路に着く。 表層を歩いたり自転車で通行できるんですが、ぐるぐると登ると頂上まで2.5km あります。エレベーターというよりも電車のような「Vertical Train(垂直の電車)」が時刻表で動くようなシステムを考えています。

本来の土地 (地面にある土地) と同様に、ランドスケープの一部 (空中の土地) を購入することが出来ますが、その上に家を建てるのではなく、下に吊ります。一つのプロトタイプとして、高さ 300m、幅と奥行き 100m の構造を提案しています。 300m にして 26 層しかない設計により、層と層の間は平均で 12m も開いていますので、光が中心まで入り、風が通り、開放感があります。 ビエンナーレでは幾つかの模型と動画も展示中です。一番大きな模型は1/100で高さ 3m です。

ーどなたかとご一緒されているんですか。

ブッシュ:構造、環境(ESD とライティングデザイン)、設備はARUP とコラボです。それから、この Vertical Landscapes に提案している「Urban Farming(都心の農業)」のコンセプトとその最適化を、東京にある AI の会社 BRAID Technologies とコラボしています。

ー今後どのように Vertical Landscapes が実現されていくのか、楽しみにしています。本日はありがとうございました。



ヴェネツィアビエンナーレで展示中 「Vertical Landscapes」模型



「Vertical Landscapes」パース

#### TOPICS/INFORMATION

#### 池田建設の現場見学会がおこなわれました

8月29日、神奈川県逗子市にてグループ会社である池田建設主催の現場見学会が開催されました。他のグループ会社含め総勢35名が現場所長の案内のもと、現場内を見学させて頂きました。

久米設計からの依頼で開始された本プロジェクトは国指定の登録有形 文化財として指定されている「旧本多邸」の改修工事。

旧本多邸は2階建ての木造であり、「久米式耐震木骨構造」という構造 方式がとられています。この構造が採用されている建物は現存してい るものでたったの3例(旧本多邸含む)しか確認が取れておらず、歴史 的、学術的に価値のある木造建築物となっています。

モルタル、タイルを主として洋風な外観が特徴的な旧本多邸は、内部空間に関しても多少和室が見られるものの、大きな吹き抜けのある居間を中心として洋室が並び、現在は解体されていますが様々な装飾が施された内装には和洋折衷が感じられる造りとなっていたようです。



部材が細かく組み合わされる久米式耐震木骨構造



現場所長による説明



建物正面



保管された建具

1939年に竣工して以来、多少の増改築はあったものの大規模な改修は行われておらず、約80年に渡る年月を経て、2階はバルコニー下部からの漏水による部材の劣化、1階では湿気による腐朽といった全面的な改修が必須な状況となっていました。

見学会当日の内部では内装が取り払われ、老朽化した下地材の取替、外部では屋根のスレートの張替が行われていました。現場所長のお話では内装で使用されていたレリーフやサッシ、ガラスなどはなるべく現存したものを再利用するそうです。現場近くの資材置き場には工事開始前に残置されていた前述の建具や装飾、当時の家財道具であったと思われる家庭用のパイプオルガン、白黒テレビ等が所狭しと置かれているのが印象的でした。

弊社では施工する機会の少ない木造建築、かつ歴史的に価値のある物件を間近に見学できたのは貴重な経験であり、新たな刺激になりました。 竣工後には地域コミュニティや様々な活動で使用されていく予定のようです。

URL https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/595070 ご参照下さい

### 「健康経営に向けた運動促進プログラム」 に参加しています

公益財団法人健康・体力づくり事業財団の研究事業として、健康マネジメント・オフィス K の代表 石田様から辰に研究対象としての参加のお話がありました。石田様は SHIN CLUB 282 号の「代々木の家」意匠設計者の今永氏が十数年前に設計した、木造住宅の建て主様です。新築当時の施工会社での施工がむずかしいという事情もあり改修工事のご相談をいただき、昨年末に外壁塗装や防水工事、サッシ工事や大きなトップライトに屋根をかける工事などをいたしました。そのようなご縁もあり、今回石田様の研究に参加させていただくことになりました。

社員の心身の健康は企業の業績アップにつながるといわれています。今回は「健康管理アプリを活用したリモート運動促進プログラム実践指導方法の工夫と健康経営企業への適用」の研究に社員十数名が参加しています。

健康管理アプリを活用し、日々の運動や食事内容を入力し専任の健康運動指導士によるリモート運動指導プログラムを個別に受け、各自の運動目標達成に向けて効果のある工夫点や課題を明らかにしていただきました。そして運動実践により社員の生活習慣・業務指標・こころの指標にどのような変化が見られるかを分析する研究です。

今回の改善目標 ① 減量したい ② 体力をつけたい ③ 美しい姿勢になりたい ④ 肩・腰痛をなくしたい このなかから各自の目標を定めましたが、3ヵ月のプログラム終了後に社員に良い生活習慣が身につくことを期待しています。



アプリで入力



変化がグラフに

#### 「(仮称)神宮前アバックビル」新築工事 地鎮祭

2023年9月28日



原宿キャットストリートで、テナントビルの工事が始まります。安全第一で建築いたします。

構造 / 規模: RC造 / 地上 3階

用途: テナントビル

設計:内海彩・長谷川龍友建築設計事務所

施工担当:齋藤敏大(池上チーム)

完成予定:2024年5月

#### SHIN CLUB メールマガジンへの切り替えのご案内

毎月お手元にお届けしております SHIN CLUBですが、デジタル環境への移行といった社会情勢を踏まえ、ペーパーレス化の検討をしております。ご協力いただけるお客様は、右記 QR コードよりご入力をお願いいたします。



また、ご意見やご感想等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡ください。

daihyo@esna.co.jp

#### 編集後記

・ようやく秋らしい気候になって参りました。10月28日(土)に第11回 ZEN 社一丸大運動会が行われます。4年ぶりに行われた昨年は総合4位という結果に終わりましたが、社員一同一致団結して今年こそ優勝します!

(株) 辰 通信 Vol.283 発行日 2023年 10 月 10 日編集人:本間夏来/村上由衣/土屋祐一郎 発行人:岩本健寿〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail:daihyo@esna.co.jp URL:http://www/esna.co.jp



「SHIN CLUB」は WEB 上でもご覧 いただけます。

バックナンバーも PDF で掲載してい ます。 スマホはこちらから

